



## 主任コラム5月号

主任 澤井 良子

入園・進級から1カ月が経ち、子どもたちも新しい環境に少しずつ慣れてきました。遊びの中でお友達と関わる姿や、保育者に自分の思いを伝えようとする姿も増えてきています。

年長児は、お当番活動やゾーン遊びの中で、自分たちで考えながら取り組む姿がもらえます。「ここには何が必要かな?」「どうしたらもっと楽しくなるかな?」と話し合いながら、遊びや環境を保育士と一緒にゾーン担当を作っていました。大人だけが環境作るのではなく、子ども達と一緒に考えながら作っていく姿に成長を感じました。幼児クラスのゾーンの環境が、子ども達の意見が取り入れられながら、変わっていくことが楽しみです。大人が決めるのではなく、子ども達と一緒に考えながら形にしていくことを大切にしたいと幼児クラスの先生たちが取り組んでくれています。また、年長児は小さい子への関わりも増え、優しく声を掛けたり遊び方を伝えたりする姿も見られるようになりました。この1カ月での成長から、これまでの積み重ねがしっかり力になっていると感じています。

乳児クラスでは、安心して過ごせる関わりを大切にしてきた中で、少しずつ「やってみたい」という気持ちが見られるようになってきました。その気持ちを大切にしながら、手の取りやすいおもちゃの配置や、友達の様子が見える環境づくりなどなど、子どもたちが自然と遊び出せるよう工夫しています。

そして先日、園庭で泥遊びが始まりました。水や土に触れながら「冷たいね」「やわらかいね」と感触を楽しんだり、「どうしたら固まるのかな?」「もっと水を入れたらどうなるかな?」と試したりする中で、たくさんの発見が生まれてきます。夢中になって遊ぶ姿からは、子どもたちの集中力や探求心の育ちも感じられます。

汚れることを気にせず、思いきり遊べる環境の中で、子どもたちの「やってみたい」という気持ちをこれからも大切にしていきたいと思います。一人ひとりのペースを大切にしながら、「できた」「楽しい」という経験を保育園の環境の中で積み重ねていけるように、環境を整え、保育していきたいと思います。

